

# 調査成果報告書

博多港（中央ふ頭・博多ふ頭）における 海の観光・交流ゲートウェイづくり			
調査 主体	福岡市港湾局		
対象 地域	福岡県福岡市	対象となる 基盤整備分野	

## 1. 調査の背景と目的

博多港は、国際乗降客数が19年連続日本一であるとともに、アジアクルーズの急増から外航クルーズ客船寄港数も日本一になるなど、我が国随一の海の観光ゲートウェイとなっている。更に、日中韓のショートクルーズの増加など、アジアとの新たな交流が加速している中、九州新幹線の全線開通を契機とし、九州が一体となったアジアとの観光・交流拠点づくりの気運が高まりつつある。

本調査は、博多港（中央ふ頭・博多ふ頭）において、アジアとの近接性や直径5km圏内に集積する陸・海・空の交通結節機能を活かし、九州の観光地等と連携を図りながら、アジアと九州をつなぐホスピタリティに富む海の観光・交流ゲートウェイづくりを着実に進めていくため、当該地区の将来ビジョンやその前提となるアクセシビリティの向上を図る道路空間等の基盤計画について検討を行うものである。

## 2. 調査内容

### （1）調査の概要と手順

- ① 将来性・潜在力 ～アジアと福岡・九州が一体となった観光立国の実現に取り組む～
  - ①-1 今後さらに深化するアジアとの関係
  - ①-2 九州が一体となった受け皿づくりの動き
  - ①-3 福岡・博多港（中央・博多ふ頭）に求められる役割
- ② ウォータフロント（中央・博多ふ頭）に対する多様なニーズと官民連携の動き
  - ②-1 市民のニーズ
  - ②-2 アジアからの旅行者のニーズ
  - ②-3 有識者・港湾関係者等の意見
  - ②-4 民間及び開発事業者の動き
- ③ ウォータフロント（中央・博多ふ頭）の課題
- ④ 将来ビジョン ～多様な連携による我が国の海の観光・交流ゲートウェイづくり～
- ⑤ 将来ビジョンの実現に向けた具体的取組み
- ⑥ 今後の進め方

## (2) 調査結果

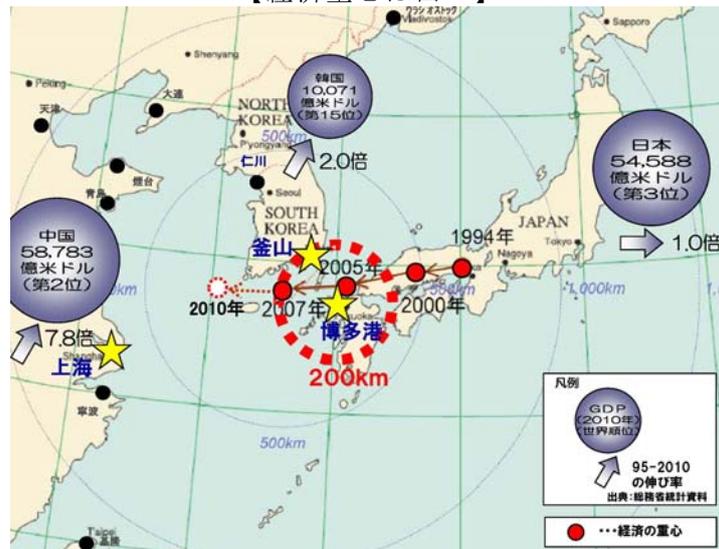
### ①将来性・潜在力 ～アジアと福岡・九州が一体となって観光立国の実現に取り組む～

#### ①-1 今後さらに深化するアジアとの関係

急速な経済成長により、世界第2位のGDPに躍り出した中国では、富裕層、中間層の拡大により、海外旅行が飛躍的に増加している。特にクルーズ市場の将来性への期待は高く、平成22年7月の大幅な発給ビザ要件の緩和等も手伝って、上海と韓国（釜山、済州島）～九州を結ぶショートクルーズが活況を呈している。

日中交流の新たなステージの幕開けに対応して、観光立国の実現を図る大きなチャンスモノにすることで、今後さらに深化していくアジアとの関係を構築していくことが求められる。

【経済重心は西へ】



#### ①-2 九州が一体となった受け皿づくりの動き

一方、九州・我が国のGDPは、ここ10年でほぼ横ばいの状況にあり、成長を支える生産人口の縮小が将来の大きな課題となる中、今後、アジアとの観光・交流の拡大は、成長エンジンの大きな柱となる。

九州は、アジアと近く、温泉地などの豊かな観光・自然資源や歴史資源を有していることから、アジアから多くの観光客が訪れている。平成23年4月の九州新幹線全線開通により、福岡から鹿児島まで約1時間、大阪まで2時間で結ぶ広域幹線ネットワークが整い、これを契機に、福岡市、熊本市、鹿児島市の三都市連携や太宰府などの福岡都市圏との連携、各地域間の連携による観光圏の形成など、九州が一体となってアジアからの観光客を迎える受け皿づくりが急速に動き出している。



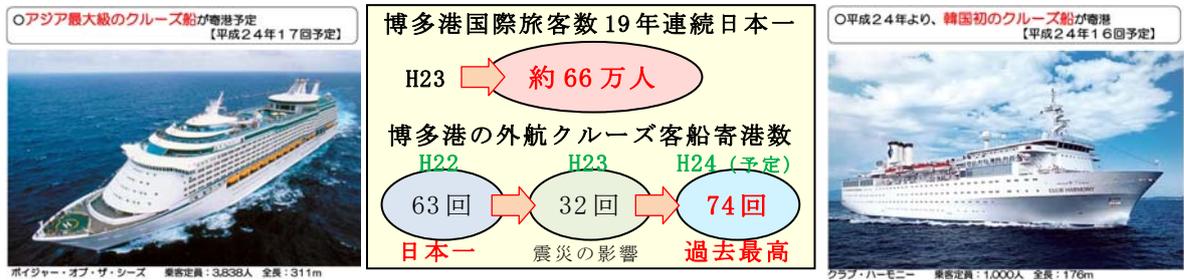
### ①-3 福岡・博多港（中央・博多ふ頭）に求められる役割

#### ○アジアとの交流機能を有する海の玄関口

福岡・博多港は、韓国・釜山港と約200kmに位置し、長年にわたる韓国との交流は、今や日常的な交流へと深化している。また、平成24年は、過去最大の外航クルーズ船の寄港が見込まれる（3月末現在で74回の寄港予定）とともに、アジア最大級のクルーズ船の寄港や新たに韓国クルーズの参入など、アジアクルーズ市場が急速に拡大するなど、今後、日韓交流に加え、本格的な日中交流がスタートすることになる。

また、クルーズを含め、博多港の国際旅客の玄関口となっている中央・博多ふ頭においては、全国一の国際旅客者数を誇る「博多港国際ターミナル」があり、直近には大型展示場、国際会議場等が立地し、アジアから多くの方々が参加する国際コンベンションが開催されている。

中央・博多ふ頭は、アジアとの新たな交流の時代を迎え、我が国にアジアの成長と活力を呼び込むアジアとの交流機能を有する海の玄関口としての役割が今まさに求められている。



#### ○アジアと九州、全国を繋ぐ優れた交通結節性と利便性

中央・博多ふ頭に隣接して九州各地へと繋がる高速道路ランプが位置し、絶好の交通利便性を活かして、太宰府や湯布院など九州各地の観光地と繋ぐシャトルバスが運行している。また、博多駅、福岡空港とも近接し、陸・海・空の輸送モードがコンパクトに集積、Fly&Cruise や Rail&Ferry により、広域からの人の流れの集散地となっている。

また、約2km圏内に商業・飲食施設が集積した都心核天神が位置しており、アジアからの訪問者の買い物（電化製品、化粧品等）需要に対応している。

#### ○成長し続ける福岡の都市力

福岡市は人口約148万人、背後都市圏を含めると約243万人の人口を抱え、人口減の社会にあっても未だ年間1万2千人程度人口が増加するなど成長し続ける都市である。

また、九州のGDPは世界第23位のノルウェーとほぼ同等の約44兆円、人口は約1,300万人を擁している。



## ②ウォーターフロント（中央・博多ふ頭）に対する多様なニーズと官民連携の動き

### ②-1 市民のニーズ

#### ○市民意識調査等を活用したアンケート

ウォーターフロントに対して、次のような市民ニーズがある。

- ・海を眺め、滞留し、憩えるウォーターフロント空間等
- ・ウォーターフロントへの交通アクセスの充実

### ②-2 アジアからの旅行者のニーズ

#### ○観光庁によるアンケート

外国人旅行者が旅行中困ったことについて、アンケート調査が行われており、インターネットにより情報の取得が可能な**無料Wi-Fi環境**の整備に対するニーズが高い。

#### ○（財）アジア都市研究所、大学等によるアンケート

アジアからの旅行は、団体旅行から個人旅行へと転換しつつあり、特に韓国からの旅行者の半数以上は個人旅行となっている。このため、多くのニーズとして、**一人旅でも安心できる充実した情報提供**が求めている。

ウォーターフロントについては、その地域性を感じさせるデザインの導入等が求められている。

### ②-3 有識者・港湾関係者等の意見

#### ○博多港長期構想（案）における提案

博多港の20～30年後の将来像を展望する「博多港長期構想（案）」において、中央・博多ふ頭の将来像や実現に向けた取組みについて提案がなされており、そのポイントは次のとおりであるとする。

- ・港とまちが一体となった、「みなとまち博多」の実現
- ・都市的土地利用への転換による人流拠点の形成
- ・旅客、コンベンション及びにぎわい機能を持つ土地利用の実現

### ②-4 民間及び開発事業者の動き

#### ○官民連携組織の立ち上げ

地域の国際競争力を強化するために、産学官民が一体となって成長戦略の策定からプロジェクトの推進までを行う組織として、平成23年4月に福岡地域戦略推進協議会（FD C）が設立され、地域診断にもとづく重点産業分野への取り組みや、ウォーターフロントを含めた都心再生等について検討が進められている。

#### ○開発事業者の動き

中央・博多ふ頭については、諸外国におけるウォーターフロント開発と同程度の開発規模であり、背後も含めた地域のポテンシャル等から開発ニーズが高まっている。



### ③ウォーターフロント（中央・博多ふ頭）の課題

将来ビジョンの実現に向けて、都市との連携を視野に入れたウォーターフロントの課題について整理する。

#### ■ベイフロントでの課題

##### (1) 急増するクルーズ需要に対応した港湾機能の強化

現在、3つのクルーズ船社（中国クルーズ2社、韓国クルーズ1社）が常時寄港している状況にあるが、着岸可能な岸壁は1バースしかなく、圧倒的に港湾機能が不足している。また、背後においても物流施設が立地し、バスターミナル等の利便施設を整備する空間が十分に確保できない。このため、港湾機能の強化および博多港内での物流再編が必要である。

##### (2) 効果的な都市機能の導入と、これを実現する柔軟な土地利用の誘導

中央・博多ふ頭にある、コンベンション機能・集客機能は、臨港地区内に位置している。今後、これらの機能の拡充や新たな商業施設の導入等に適切に対応するため、臨港地区の分区規制の見直し等、柔軟な土地利用を担保できるよう誘導していく必要がある。

##### (3) にぎわいのある海辺空間の確保と、ふ頭間・施設間の回遊性の充実

多くの市民が集い、海を眺望する空間が必ずしも十分ではなく、また、中央ふ頭と博多ふ頭間に一定の距離があるため、回遊性についても脆弱な状態にある。このため、歩いて楽しくなるような魅力ある景観づくりや、わかりやすいサインの導入等が必要である。

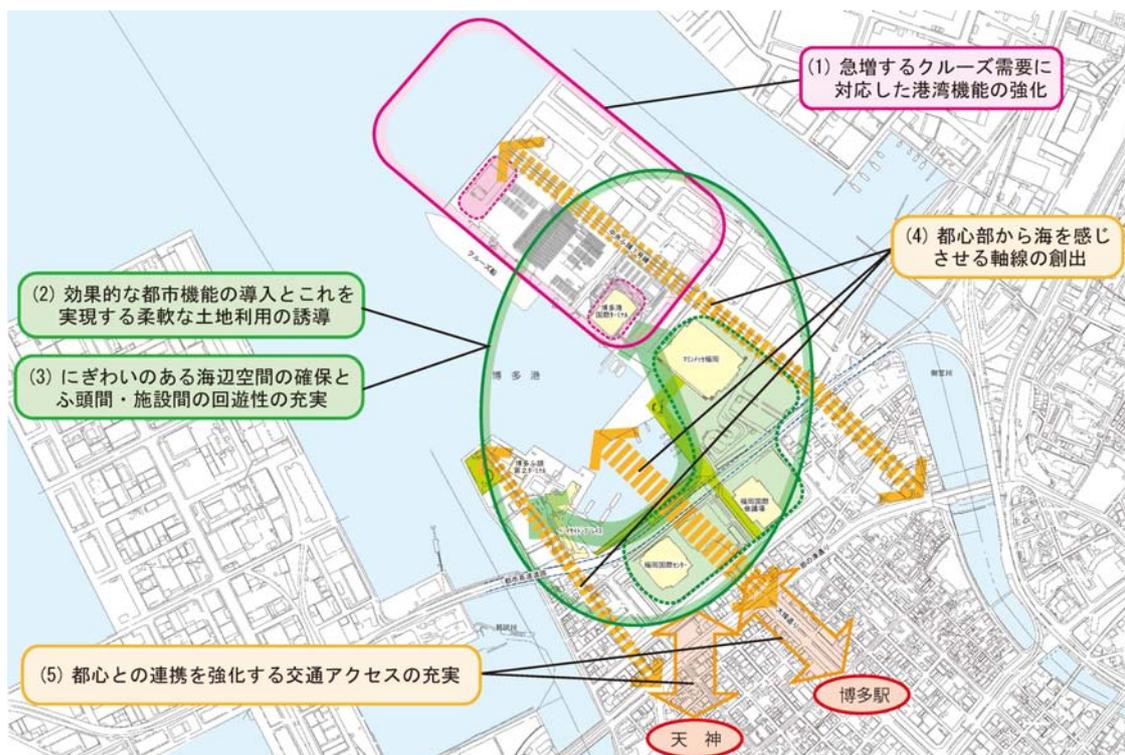
#### ■都市との連携

##### (4) 都市部から海を感じさせる軸線の創出

背後地域から、海を予感させる演出が少なく、海へ向かう軸線が十分でないことから、海への視認性の確保や、周辺地域と一体となったゲートづくりが必要である。

##### (5) 都心との連携を強化する、交通アクセスの充実

中央・博多ふ頭には、西日本地域を代表するコンベンションコンプレックスが形成されるなど、一定の集客力（年間約500万人）があるものの、背後との交通アクセスはバスに依存しており、天神・博多駅とつなぐ交通アクセス強化の検討が必要である。



#### ④将来ビジョン ～多様な連携による我が国の海の観光・交流ゲートウェイづくり～

中央・博多ふ頭は、あらゆる垣根を越えて、海と都市、さらにアジアと福岡・九州、ひいてはわが国との多様な連携に取り組む、アジアと我が国を結ぶ海の観光ゲートウェイを目指す。

##### □アジアとの連携

###### ○アジアと我が国を結び、新たな価値を創造する交流拠点づくり

##### □海との調和

###### ○博多湾を最大限活用した、海と一体となった都市づくり

博多湾はその恵まれた自然、歴史の厚み、福岡の活力を支える港のダイナミズム等、日常では体験できない多くの観光資源を有しており、これらを広く市民等に開放していくことが重要である。

博多港における国内旅客の拠点である「中央・博多ふ頭」は、そのポテンシャルを活かして博多湾の観光・周遊の起点となる拠点づくりを進め、海に開かれた都市づくりを進めていく。

###### ○港湾機能と都市機能が調和した新しいウォーターフロントの形成

中央・博多ふ頭には、アジアからの訪問者等の起終点となっている。港湾機能（国際、国内旅客機能）と、多くの市民が訪れる都市的機能（コンベンション機能、集客機能）が立地しているが、相互間の機能連携は必ずしも十分ではない。

このため、施設間の回遊性の確保、官民共催によるイベントの開催、地域の特色を活かして海辺を感じさせるコンベンションの開催、クルーズ旅行者に対する集客機能を活かした飲食や購買への対応など、ハード・ソフト両面で有機的な連携に取り組み、訪れ、憩い、会合し、多様な交流を紡ぐ新しいウォーターフロントの形づくりを進めていく。

###### ○みんなで共働した、おもてなしの気持ちの演出

行政や民間事業者のみならず、広く市民が共働しながら、真に親しめる港づくりを市民自らがつくり上げ、多くの人が関わりながら、おもてなしの気持ちを演出する。

###### ○福岡の歴史や地域性と融合した新しいアジアのみなの形成

博多織や博多人形、九州の温泉地、雄大な自然資源など、アジアに向けて福岡・九州の地域性を多様なメディアを介して発信するとともに、アジアの多様性、繁華性等を演出することで、新しい「アジアの港・博多港」を形成していく。

ウォーターフロント（中央・博多ふ頭）

##### □都市との連携

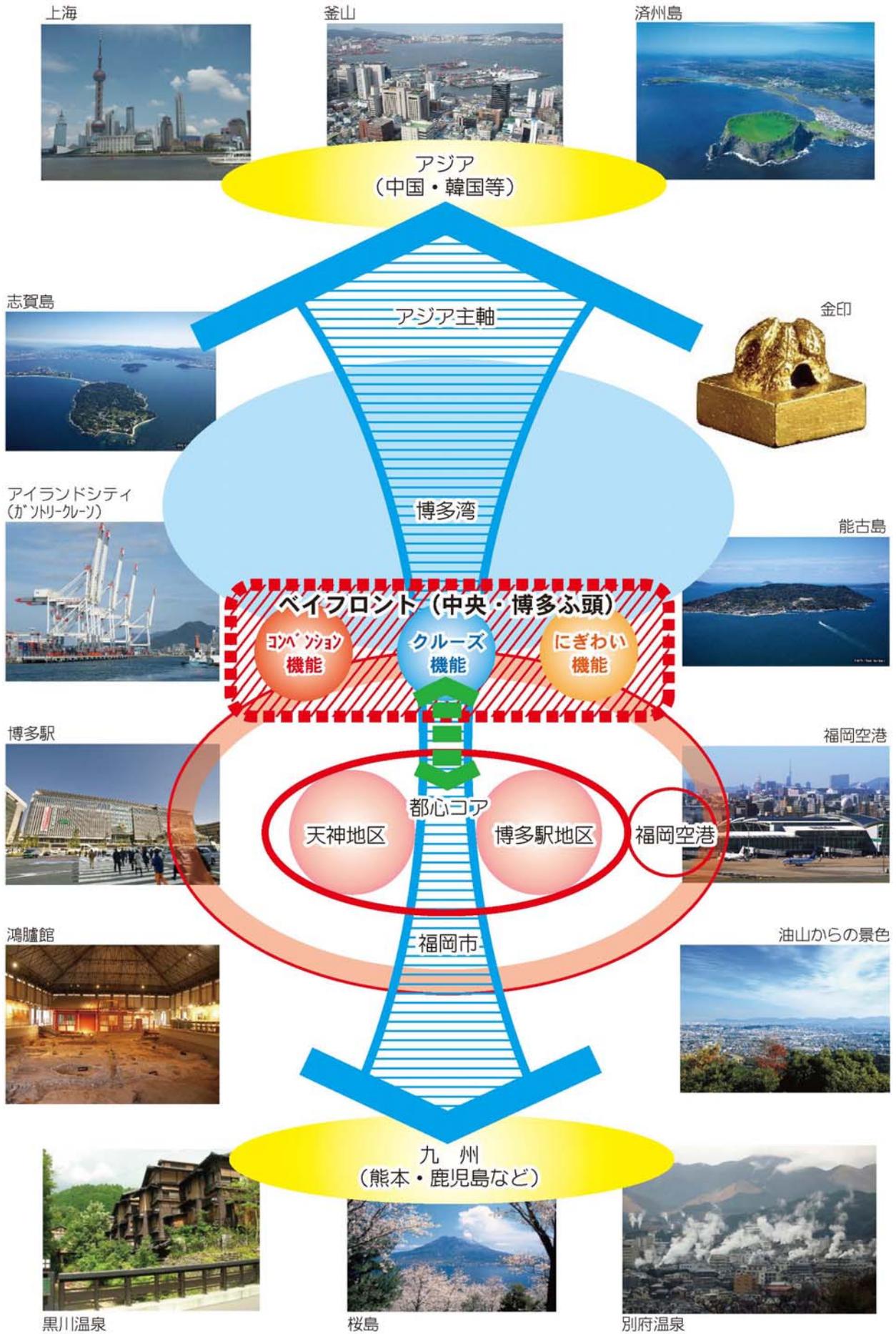
###### ○陸と空のみなどが連携し、都心部と一体となった魅力ある観光交流都市づくり

博多港（中央・博多ふ頭）と、博多駅・福岡空港との近接性を活かし、相互が有機的に連携しながら、アジアからの訪問者をあたたかく迎え、安心して旅立たせる機能の充実に取り組むとともに、港と都心との適切な役割分担のもと、一体となってアジアからの訪問者の満足を得る魅力ある観光交流都市づくりを進める。

##### □九州の一体化

###### ○九州が一体となった観光立国の実現

【将来ビジョンのイメージ】



## ⑤ 将来ビジョンの実現に向けた具体的取り組み

### 《基盤計画の検討》

#### ○クルーズの受入体制の強化・充実

アジア最大級の大型クルーズ船の寄港に対応するため、C I Q体制の充実やバスターミナル等の確保に向けて、関係機関、関係者等と協議し、受入体制の充実・強化に取り組んでいる。

#### ○地区内外の交通アクセス強化

拡大するアジアからの人流に対応するため、一般車両と物流車両の動線を分離し、円滑な交通アクセスを実現する幹線道路の整備について検討を進めている。また、中央・博多ふ頭と天神・博多駅地区を結ぶ公共交通によるアクセス強化について検討している。

#### ○ワークショップの立ち上げ、市民参加型のイベントの開催

ウォーターフロントのにぎわいづくりのため、近隣の専門学校生や地元住民、周辺施設の関係者と共働でワークショップを設置するなど年間を通じて市民参加型のイベント等の開催を行っている。

#### ○民間の協力による良好な景観形成の創出

対岸の港湾施設更新にあわせて、博多織等のデザインを導入し、周辺の景観の向上に取り組んでいる。

#### ○エイブルアートの導入によるにぎわいづくり

障害者の方々が描くアート（エイブルアート）を導入し、メインストリートでの歓迎バナーや、ふ頭間の回遊性を高めるための路面での案内サインの設置等に取り組んでいる。

歓迎バナー（臨港道路1号線）



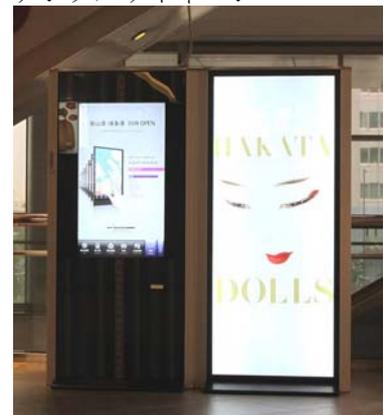
路面での案内サイン



#### ○デジタルサイネージの設置（民間）による情報の取得

博多港国際ターミナル内に、観光情報、交通情報等を取得する電子広告看板（デジタルサイネージ）を設置。無料Wi-Fi環境の整備により、多くの旅行者が利用している。

デジタルサイネージ



#### ○海を感じさせる軸線の拡張

海への視認性、アクセス性を高めるため、コンベンション施設間の動線を拡張するベイサイドパスを整備する。

【ベイフロントにおける将来ビジョンの実現に向けた取り組み】

大型クルーズ船の受入体制の強化



アートコンテナの設置



イベントの開催



須崎ふ頭サイロ等の景観向上



ロードトレインの運行



ベイサイドバスの拡幅



2階建てバスの運行



交通アクセス強化の検討



## ⑥今後の進め方

東日本大震災からの回復に伴い、アジアからの人流は急速に拡大し、クルーズ・国際フェリー需要への対応が喫緊の課題となっており、また都市機能の導入等について民間からの具体的な提案がなされている。

このウォーターフロントを取り巻く環境の急激な変化をチャンスと捉え、スピード感をもって、港湾機能の充実強化と都市的機能の導入等に向けて、国、福岡市、福岡地域戦略推進協議会等官民連携のもと、事業化計画の策定・実施に向けた検討を進めていく必要がある。

### 【官民連携調査費を活用した検討の概略と今後の進め方】

